



トヨタ自動車株式会社
石原 修さん

保全の管理者として改めて 自主保全の進展を提唱。

1年前は同じ会場で、自主保全士検定試験2級の成績優秀者に選ばれ、2024年度表彰のこの日は、同1級の成績優秀者として、2年連続の表彰。さらに同日は企業の代表として団体表彰にも選ばれ、企業の取り組み事例講演の壇上に立つ。石原さんはまさしくベテラン技術員だ。

新卒入社し、最初は上郷工場で保全部署の技術員として配属。その後、製造技術員としてエンジン製造ラインの改善や新規立ち上げを担当。2012年からは4年間、中国天津のエンジン工場で製造部部長に就く。帰国後はトヨタ自動車元町工場のグローバル生産推進センターに異動。現在は主幹として、これまで培った保全スキルと経験を活かし、主に同社国内各工場製造部門の保全に関する情報把握と展開、管理を担当している。自主保全士検定に関しては、会社側に立って社内に推進する立場だ。

「資格取得を勧める当の本人がまず資格をとるべきだと考え、受験するに至りました。また役目上、検定の内容を詳しく把握する必要もありました。勉強を始めて気づいたことですが、トヨタ生産方式（TPS）とTPMには相違点もあり、検定に臨むことで、モノづくりに関する視野が広がりました。私はトヨタグループをはじめ社外



の方々との接点も多いのですが、トヨタの中でしか通用しない用語や考え方もあり、一方ではこれまで私自身はあまり使っていなかったTBMやCBMといった用語や、設備総合効率などといった考え方を習得できたことは、社外の方々とのコミュニケーションにおいてもとても有意義だったと思います」

検定受験したことで、保全部署に求められる能力や解析方法を体系的に学べた。今後はより自信をもって、自主保全士の資格取得を勧めていきたいと石原さんは語る。

「トヨタでは車両工場とエンジンなど部品を生産するユニット工場に大別されます。ユニット工場では“三本柱活動”というものがあり、その一つの柱が自主保全で、活動が浸透しているのですが、車両工場では自主保全が十分に浸透していない職場がまだ多い状況です。しかし今日では、自動化やEVなど新しい技術やシステムを安定して稼働させるために保全の重要性が増しており、専門保全はより高度な知識と技術への対応が必要となります。そのためにも日頃から設備の状況を把握し、自主保全を推進できるオペレーターの充実、これが全社的に急務であると、その活動推進を提唱しています」

